松前沖洋上風力発電と産業振興に関する勉強会について

令和7年(2025年)9月24日

北海道

01

北海道における
GX関連産業集積の取組み

- 「GX（グリーントランスフォーメーション）について

北海道

北海道におけるGX関連産業集積の取組み

「ＧＸ（グリーントランスフォーメーション）について

■ 「ＧＸ」とは、グリーントランスフォーメーションの略で、化石燃料中心の産業構造・社会構造を環境への負荷が少ない再生可能エネルギー中心へ転換する取り組み。

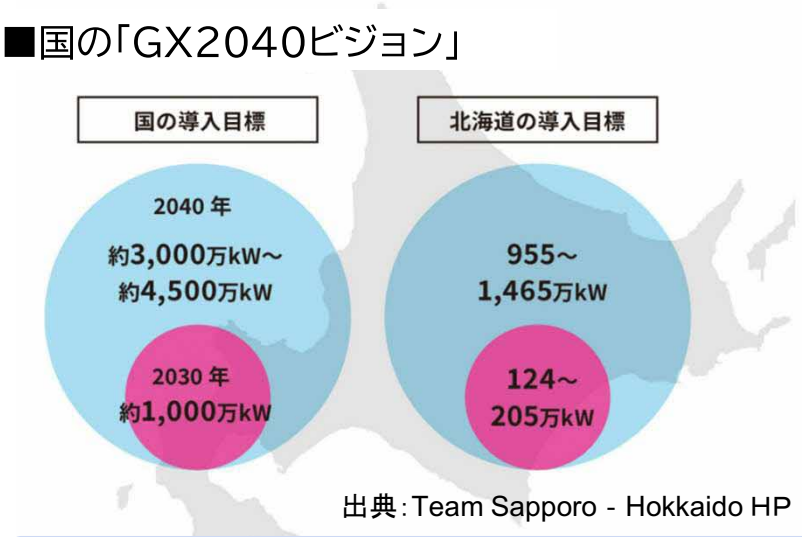
■ 道では、道内各地の多様な再エネのポテンシャルを活用し、国内外から投資を呼び込み、再エネ供給拠点のみならず、再エネの利活用拠点として、全道域でのＧＸ産業の集積や地域振興を図っていく。

洋上風力発電について

○ 洋上風力発電は、風車を海上に設置するため、陸上より風が強く、より大きな風車の設置が可能。

○ 風車を大型化することで大量の電気を発電することが可能となることから、海に囲まれている我が国にとって、再エネ拡大の切り札とされる。

■国の「GX2040ビジョン」



出典：Team Sapporo - Hokkaido HP

■北海道における再エネの導入ポテンシャルの割合

区　分	導入ポテンシャルの割合
風　力　発　電	全国の約35.6%（全国１位）
太　陽　光　発　電	全国の約23.3%（全国１位）
中　小　水　力　発　電	全国の約　9.8%（全国１位）
地　熱　発　電	全国の約12.5%（全国２位）

出典：Team Sapporo - Hokkaido HP

○ 洋上風力の導入目標は、国内45GW　このうち、道内は約15GWと全国の1/3であり、道内の年間電力需要量の約1.5倍に相当

02

道南地域における
洋上風力発電の概要

- 松前沖促進区域の概要
- 渡島・檜山地域における地域展開の考え方
- 洋上風力発電事業に係る地元企業参入の可能性
- 松前町洋上風力発電事業の投資規模について

北海道

道南地域における洋上風力発電の概要

北海道松前沖促進区域の概要

■　令和7年7月30日、経済産業省及び国土交通省は、「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律（再エネ海域利用法）」に基づき、北海道松前沖及び北海道檜山沖を北海道初の促進区域として指定。

促進区域の概要

○ 指 定 日　令和7年7月30日

○ 区　　域　右図のとおり

○ 面　　積　3710.4ha

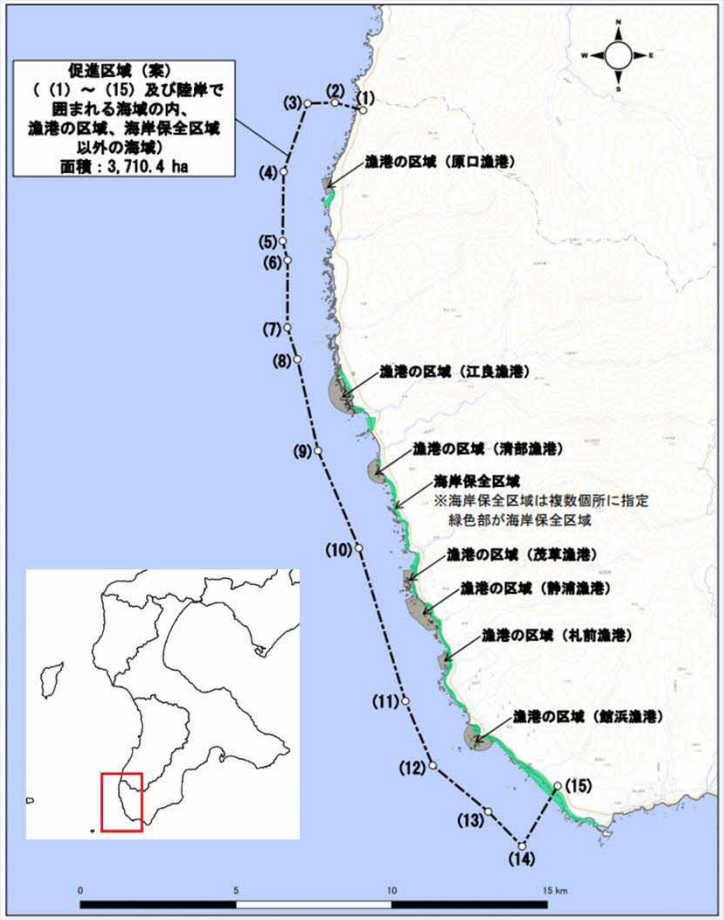
○ 発電規模　最大 32万kw

○ 再エネ海域利用法に基づく「北海道松前沖における協議会」の開催状況

第1回　令和５年11月13日
第2回　令和６年３月26日
第3回　令和６年７月31日

○ 今後の流れ

国が公募占用指針を策定し、当該促進区域内海域において海洋再生可能エネルギー発電事業を行うべき者を選定するための公募が行われる。

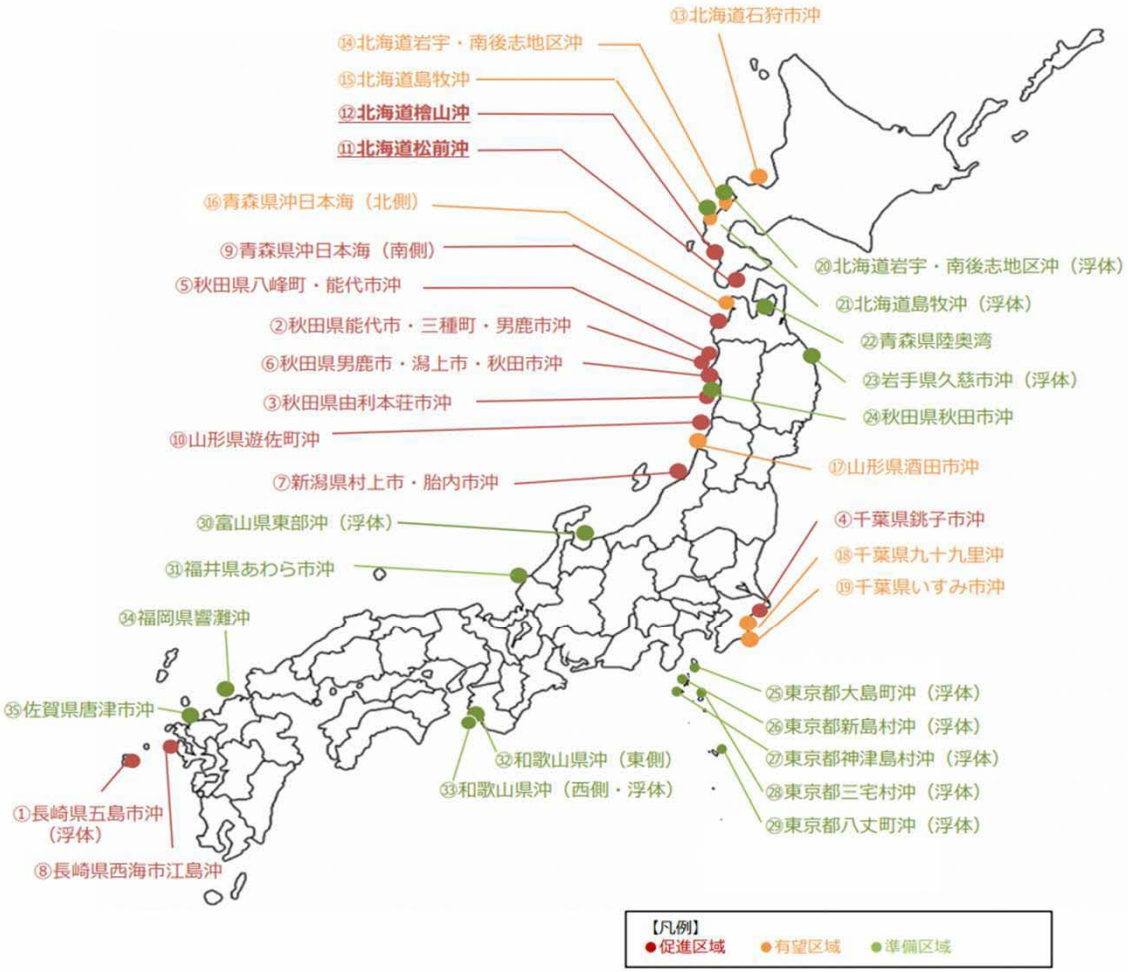


※出典：資源エネルギー庁

道南地域における洋上風力発電の概要

北海道

促進区域・有望区域等の指定・整理状況(令和７年７月30日時点)

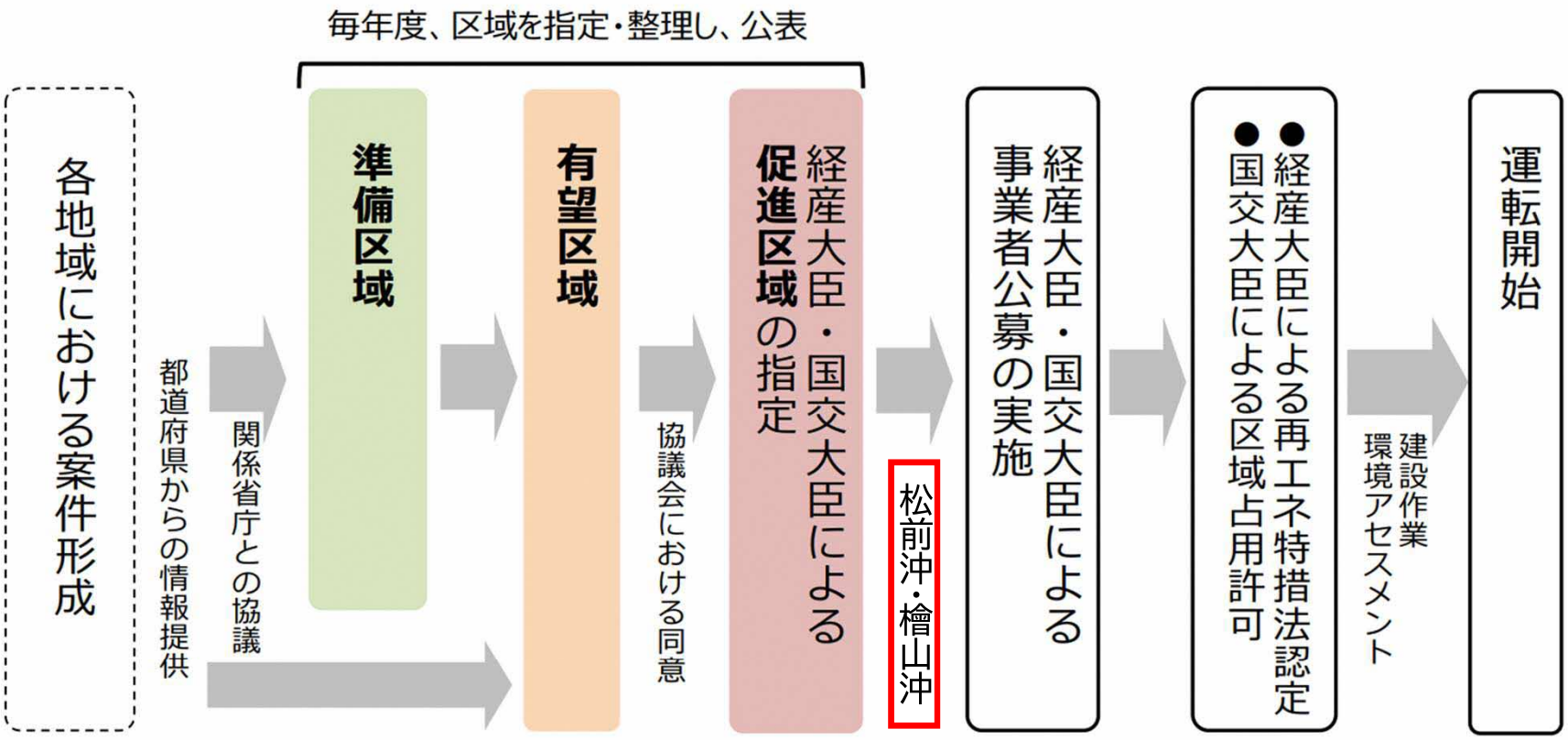


区域名		万kW※1	
促進区域	①長崎県五島市沖（浮体）	1.7	事業者選定済
	②秋田県能代市・三種町・男鹿市沖	49.4	
	③秋田県由利本荘市沖	84.5	
	④千葉県銚子市沖	40.3	
	⑤秋田県八峰町・能代市沖	37.5	
	⑥秋田県男鹿市・潟上市・秋田市沖	31.5	
	⑦新潟県村上市・胎内市沖	68.4	
	⑧長崎県西海市江島沖	42.0	
	⑨青森県沖日本海（南側）	61.5	
	⑩山形県遊佐町沖	45.0	
	⑪北海道松前沖	25～32	
	⑫北海道檜山沖	91～114	
有望区域	⑬北海道石狩市沖	91～114	
	⑭北海道岩宇・南後志地区沖	56～71	
	⑮北海道島牧沖	44～56	
	⑯青森県沖日本海（北側）	30	
	⑰山形県酒田市沖	50	
	⑱千葉県九十九里沖	40	
	⑲千葉県いすみ市沖	41	
準備区域	⑳北海道岩宇・南後志地区沖（浮体）	㉘東京都三宅村沖（浮体）	
	㉑北海道島牧沖（浮体）	㉙東京都八丈町沖（浮体）	
	㉒青森県陸奥湾	㉚富山県東部沖（浮体）	
	㉓岩手県久慈市沖（浮体）	㉛福井県あわら市沖	
	㉔秋田県秋田市沖	㉜和歌山県沖（東側）	
	㉕東京都大島町沖（浮体）	㉝和歌山県沖（西側・浮体）	
	㉖東京都新島村沖（浮体）	㉞福岡県響灘沖	
	㉗東京都神津島村沖（浮体）	㉟佐賀県唐津市沖	

※出典：資源エネルギー庁

道南地域における洋上風力発電の概要

再エネ海域利用法に基づく区域指定・事業者公募の流れ



有望区域の要件（促進区域指定ガイドライン）

- 促進区域の候補地があること
- 利害関係者を特定し、協議会を開始することについて同意を得ていること（協議会の設置が可能であること）
- 区域指定の基準（系統確保、風況等の自然的条件、航路・港湾・防衛との調整等）に基づき、促進区域に適していることが見込まれること

協議会の設置（再エネ海域利用法第9条＋ガイドライン）

- 有望区域では、促進区域の指定に向けた協議を行うための協議会を設置
- 国、都道府県、市町村、関係漁業者団体等の利害関係者、学識経験者等で構成
- 協議会は可能な限り公開で議論

※出典：資源エネルギー庁

道南地域における洋上風力発電の概要

洋上風力発電事業に係る地元企業参入の可能性について

建設関連

造成工事：海底ケーブル埋設、陸上変電所建設、港湾整備などの土木・建築工事など

基礎構造物の製作：モノパイル・ジャケット等の基礎構造物の部材製作や組立など

作業船の運行：地元船会社による調査船・作業船・交通船の提供と運行など

その他：電気工事、安全管理、環境モニタリング調査、工事現場の整備など

運輸・輸送関連

港湾作業：風車部品の荷役作業、クレーン操作、警備・安全管理など

部材輸送：大型風車部品（ブレード・タワー等）の陸上輸送、資材、人員の輸送など

作業船の運航サポート：SEP船（自己昇降式作業台船）など大型作業船の支援船として、小型作業船の活躍

資材供給・支援業務

資材販売：風車部品の小型部材、作業用工具、作業員の安全装備、消耗品など

宿泊・食事提供：建設期間中の作業員、O&M担当者、視察者などによる長期・短期の宿泊、食事、サービスの提供など

その他：地域調整、広報活動支援、環境モニタリング補助、通訳・翻訳サービスなど

道南地域における洋上風力発電の概要

松前町洋上風力発電事業の投資規模について（見込み）

投資規模

総投資規模（30年間）

約3,000億円

初期建設費

約1,900億円

全体の約63.8%

O&M※ 費用

約1,100億円

全体の約36.2%

※ 運用・保守点検（Operation & Maintenance）

雇用創出効果

建設関係

約500人

延べ雇用

建設・土木作業、海洋工事・輸送、電気工事

運転期間

約150人

常時雇用

保守・点検、運転管理、サポート業務

※事業費は北洋銀行様IR資料より渡島総合振興局が推計

03

秋田県庁における取り組みの概要

- 港湾区域内における洋上風力発電について
- 秋田県における洋上風力発電の進捗状況
- 発電事業者、風車メーカーとの今後の展開

北海道

秋田県における取り組みの概要

秋田県 港湾区域内における洋上風力発電について

■　秋田県ではまずは港湾区域内における洋上風力発電の先行的な導入を目指し、平成25年度に秋田港及び能代港における適地を選定し、平成26年度に発電事業者を公募により選定

秋田港・能代港での公募

適地面積	秋田港　約３５１．４ｈａ 能代港　約３７８．０ｈａ
公募期間	平成26年12月
選定事業者	丸紅株式会社 ※事業実施主体となる特別目的会社（ＳＰＣ） 「秋田洋上風力発電株式会社」を設立 （丸紅、大林組、東北電力、コスモエコパワー、**秋田銀行**、関西電力、中部電力、**大森建設、加藤建設、寒風、協和石油、沢木組、三共**（**太字は県内企業**13社中**7社**））
発電規模	秋田港　4.2MW×13基 ＝ 5.4万kW 能代港　4.2MW×20基 ＝ 8.4万kW 合　計 約14万kW
風車メーカー	Vestas（デンマーク）
運転開始	令和４年12月（能代港）、令和5年1月（秋田港）

※秋田県提供資料から渡島総合振興局が作成　（2025.7現在）

能代港港湾区域内の洋上発電

秋田県における取り組みの概要

秋田県における洋上風力発電の進捗状況

港湾内

・**全国初の本格的な洋上風力発電所**
・**全国最多の「基地港湾」**
（本県２港／全国７港）

能代港［８.４万kW］　**秋田港**［５.５万kW］

Vestas製
能代港：4.2MW×20基
秋田港：4.2MW×13基

[発電事業者]
秋田洋上風力発電(株)
(丸紅、大林クリーンエナジー、東北電力、コスモエコパワー、**秋田銀行**、関西電力、中部電力、**大森建設**、**加藤建設**、**寒風**、**協和石油**、**沢木組**、**三共**（**太字**は県内企業））

県内企業７社が参画

[商業運転開始]
能代港：2022年12月　秋田港：2023年１月

秋 田 港

能 代 港

写真提供:秋田洋上風力発電(株)

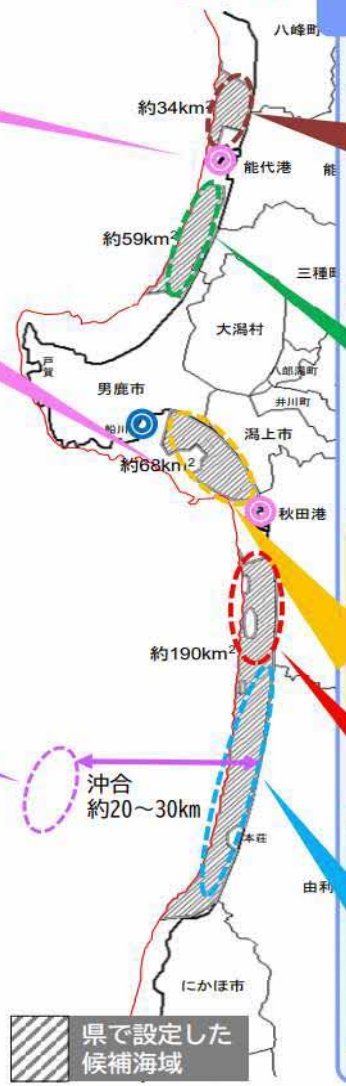
秋田県南部沖（ｸﾞﾘｰﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ基金 ﾌｪｰｽﾞ２ 浮体式洋上風力実証事業）

2023年10月　実施候補区域に選定
2024年　2月　事業者の公募開始
2024年　6月　実施海域・事業者の公表

丸紅洋上風力開発㈱、東北電力㈱、秋田県南部沖浮体式洋上風力㈱、ｼﾞｬﾊﾟﾝ ﾏﾘﾝﾕﾅｲﾃｯﾄﾞ㈱、東亜建設工業㈱、東京製綱繊維ﾛｰﾌﾟ㈱、関電ﾌﾟﾗﾝﾄ㈱、JFEｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱、中日本航空㈱

1.5万kW超×2基
セミサブ浮体

事業期間：2024年7月～2031年3月



一般海域

全国最多の「促進区域」
（本県４海域／全国１０海域）

八峰町・能代市沖［３７.５万kW］

Vestas製
1.5万kW×25基

2021年　9月 促進区域に指定
2024年　3月 発電事業者の選定
(同)八峰能代沖洋上風力
＊ENEOSリニューアブル・エナジー㈱、イベルドローラ・リニューアブルズ・ジャパン㈱、東北電力㈱
2029年　6月 運転開始(予定)

能代市・三種町・男鹿市沖［４９.４万kW］

GE製 1.3万kW×38基

2020年　7月 促進区域に指定
2021年12月 発電事業者の選定
秋田能代・三種・男鹿オフショアウィンド(同)
＊三菱商事洋上風力㈱、三菱商事㈱、㈱シーテック
2026年　3月 工事開始(予定)
2028年12月 運転開始(予定)

男鹿市・潟上市・秋田市沖［３１.５万kW］

Vestas製
1.5万kW×21基

2022年　9月 促進区域に指定
2023年12月 発電事業者の選定
男鹿・潟上・秋田Offshore Green Energy(同)
＊㈱JERA、電源開発㈱、伊藤忠商事㈱、東北電力㈱
2028年　6月 運転開始(予定)

秋田市沖
2024年 9月 準備区域に整理

由利本荘市沖［８４.５万kW］

GE製 1.3万kW×65基

2020年　7月 促進区域に指定
2021年12月 発電事業者の選定
秋田由利本荘オフショアウィンド(同)
＊三菱商事洋上風力㈱、三菱商事㈱、㈱シーテック、㈱ウェンティ・ジャパン(県内企業)
2026年　3月 工事開始(予定)
2030年12月 運転開始(予定)

※秋田県提供資料　（2025.7現在）

秋田県における取り組みの概要

発電事業者、風車メーカー等と県内企業のマッチング

県内企業による受注機会拡大及び投資拡大に向けた取組

- ✓ 建設、部品製造、メンテナンスの各分野において、電源別産業特性および事業化フェーズに応じたマッチングフォーラムや個別マッチングを実施
- ✓ 県内企業による再エネ発電事業への投資拡大の促進を目的とした再生可能エネルギー導入支援資金事業の継続実施、県内企業の資本参加に向けた体制づくり
- ✓ 再生可能エネルギー産業への参入拡大に連携して取り組むための団体の体制・組織づくりの支援　など

発電事業運営

関連部品製造

建設工事

O＆M

◆「あきた洋上風力発電関連産業フォーラム」による発電事業者とのマッチング

⇒ 出資による事業参画

◆「再エネ関連産業マッチングフォーラム」の開催

- ➢ 発電事業者とのマッチング
- ➢ 風車メーカーとのマッチング
- ➢ 関連部品サプライヤーとのマッチング
- ➢ 大手EPC企業とのマッチング

◆「洋上メンテナンス研究会」による県内企業の参入可能性領域の検討（O&M企業SPCへの参画含む）

<マッチングのフロー>

全体マッチング（セミナー等）

分野毎のマッチング

個別マッチング

※秋田県提供資料　（2025.7現在）

ヒアリングの内容

○　現在、登録されている事業者は、**県内企業約200社**

○　大手ではなく**地元の土木・建築業**などが中心

ヒアリングの内容

○　組織体があるのではなく、**県内企業に関連する情報を発信**

○　分野ごとのマッチングは、電気分野、鉄鋼部品など**業種を絞った形で、より詳細な情報発信するためのもの**

○　ある程度、**発注が見えてきたら、個別**マッチングという流れ

秋田県における取り組みの概要

（参考）秋田風力発電関連企業ガイドブックの作成

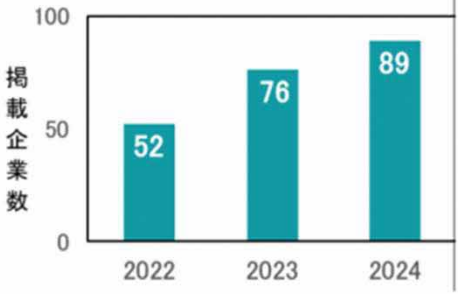
■ 風力発電の導入拡大を県内企業のビジネス機会創出の契機とするため、発電事業者や風車メーカー、大手EPC企業等に県内企業を紹介するガイドブックを作成。

ガイドブック記載例

秋田風力発電関連企業ガイドブック 2024

掲載分野

- 調査、コンサルティング業
- 製造業
  - ・鉄鋼部品
  - ・コンクリート製品
  - ・電気部品
  - ・その他
- 運輸業
- 建設業
  - ・土木、建築
  - ・電気、機械
  - ・その他
- メンテナンス業
  - ・電気、機械設備
  - ・海洋、船舶
  - ・ドローン（UAV、ROV）
  - ・その他
- 卸売・小売・リース業



ヒアリングの内容

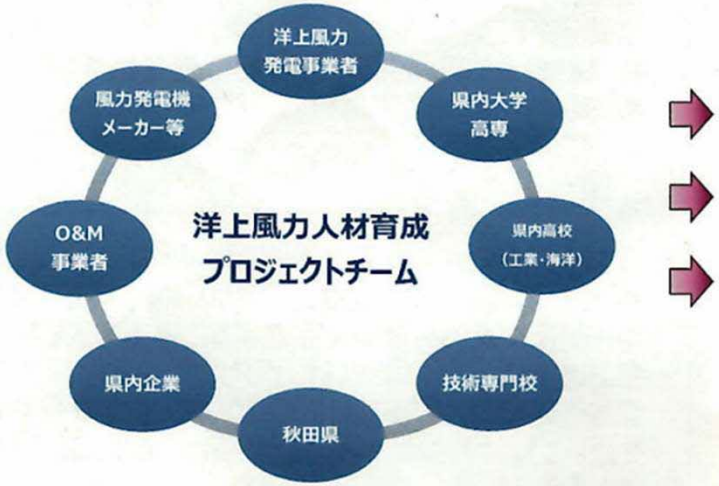
○　事業者が**公募に応札する段階で地元のサプライチェーンは、ある程度想定して公募計画を作る**ので、このガイドブックを見て、**地元企業も使おうと思ってくれれば良い**という思いで作った。

※秋田県提供資料　（2025.7現在）

秋田県における取り組みの概要

洋上風力発電人材育成推進計画

- 風力先進県としてあるべき人材育成について検討し、実際に教育機関等で教育プログラム等を実装していくため、発電事業者や風車メーカーなどで構成する「洋上風力発電人材育成プロジェクトチーム」を令和４年度に立上。
- 検討の過程で得られた調査結果などに基づき、洋上風力発電関連産業に対する人材の輩出や県内企業の育成を目的とした「秋田県洋上風力発電人材育成推進計画」を策定。
- 足下では、コスト構造の大きな割合を占め、長期にわたる地元雇用ニーズにつながるＯ＆Ｍ業務の人材育成に注力。



【秋田県洋上風力発電人材育成推進計画】

◎方針Ⅰ　学生・生徒の人材育成
- 取組①　出前講座や短期集中講座、体験型プログラムの実施
- 取組②　専門講座の実施、開講中の専門講座への誘導
- 取組③　就職マッチングによる人材確保

◎方針Ⅱ　社会人の人材育成
- 取組①　企業間連携の促進による人材育成拠点の形成
- 取組②　就職マッチングによる人材確保

【人材育成の面においても風力先進県へ】

★教育機関及び企業の資格取得・トレーニングを含めた人材育成拠点を県内に形成

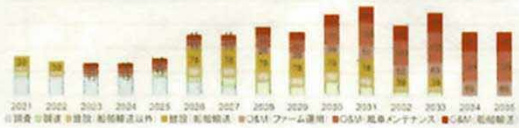
★育成した人材が県内における人材ニーズを充足

★海外を含む県外や高度な職種への人材の流れを形成

【特に注力する分野】

洋上風力の安定運用を下支えし、発電事業に最も付加価値を生み出しているＯ＆Ｍ業務は、運転開始後２０年間もの長期間にわたり大きなニーズがあり、地元からの雇用が適している上、技術を持つ人材は育成に時間がかかるため、**足元ではＯ＆Ｍ業務の人材育成に注力**

洋上風力発電のコスト構造
（洋上風力産業ビジョン（第１次）概要）



2033年以降港湾・沖合5案件が運転開始すると、地元で**最大265人程度**のO&M関連の人材ニーズが発生

県内の洋上風力発電の導入見通しに基づく人材ニーズの整理　13

※秋田県提供資料　（2025.7現在）

ヒアリングの内容

○　現在の取組としては、学生の人材育成として、**学校にも風力発電を、地場の産業として興味を持ってもらい**つつ、学校自身の取り組みとして、事業を実施したいと考えている。

04

秋田県男鹿市における取り組みの概要

- 男鹿市「船川港における港湾機能の強化」の取組について

北海道

秋田県男鹿市における取り組みの概要

男鹿市「船川港における港湾機能の強化」の取組について

■　男鹿市では、秋田県沖の洋上風力の建設を見据え、静穏度も高く、基地港湾である秋田港・能代港の間に位置する地理的優位性を活かして船川港の港湾機能の機能強化を図るなど、港湾を核とした産業の活性化を進めている。

男鹿市の概要

1　男鹿市の概要

人口　２万3,146人　（令和7年3月時点）

面積　240.09平方キロメートル

産業　農業、漁業、観光業、建設業など

基本情報

・なまはげの里として知られ、「男鹿のナマハゲ」は、ユネスコ無形文化遺産「来訪神:仮面･仮装の神々」の一つとして登録

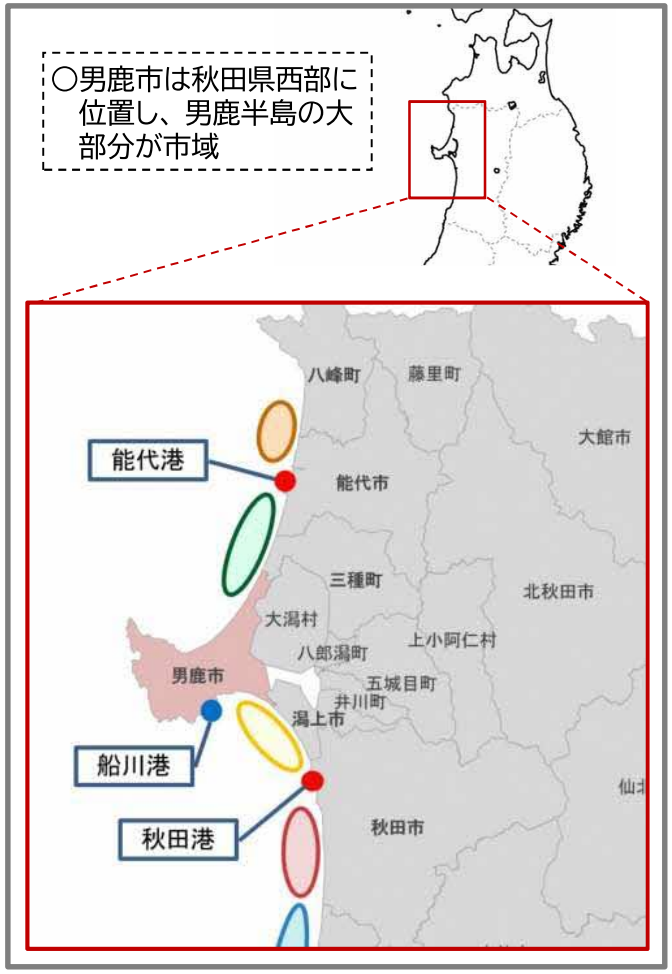
・男鹿半島は地質学的に高い価値が認められる、「男鹿半島・大潟ジオパーク」として認定

2　洋上風力発電における男鹿市の位置づけ

・男鹿半島の海岸線は、**男鹿国定公園に指定されているため、洋上風力は建てない方向で整理**

・秋田港・能代港の間に位置する**地理的優位性を活かして船川港の機能強化に取り組む**

※男鹿市提供資料から渡島総合振興局が作成　（2025.7現在）



秋田県男鹿市における取り組みの概要

北海道

男鹿市「船川港における港湾機能の強化」の取組について（続き）

港湾機能強化の取組概要

○ 船川港港湾ビジョンの策定（抜粋）

1 洋上風力発電事業推進の一翼を担う港湾機能の強化
- 基地港湾を支える補完港としての機能発揮
- 船川港に近接する促進区域におけるO&M港としての機能発揮
- 大型風車や浮体式施設の導入等を支える港湾機能の強化

2 船川港を核とした地場産業の振興
- 地元企業の洋上風力発電事業等への参入促進
- 再生可能エネルギー関連企業等の誘致
- 港湾機能の強化に伴う地場産業の事業拡大と新分野進出　など

※男鹿市提供資料から渡島総合振興局が作成　（2025.7現在）

ヒアリングの内容

○　船川港は、整備が終わった港という扱いったが、**秋田・能代が基地港湾となり、船川港も整備が必要だという、機運を高めるため**にもビジョンを策定して、県に訴え、県からも国に訴えてもらう取組をやってきた。

洋上風力発電：O＆M拠点
CTV係留施設用地

メンテナンス港：船舶修理拠点

工業用地：洋上風力関連産業の
進出予定地（今後整備予定）

津波対策：津波避難タワー

秋田県男鹿市における取り組みの概要

北海道

男鹿市「船川港における港湾機能の強化」の取組について（続き）

男鹿市の人材育成の取組

○ 洋上風力・海事関連人材の育成

■ 訓練センター「風と海の学校 あきた」

- 県内唯一の海洋高校である男鹿海洋高校の施設を活用
- 秋田市の陸上訓練施設と合わせ、GWO-BST5が受講可能
- GWO-SS、STCWは当該センターのみで受講可能
- 実践的な船舶運転シミュレーターを備える

【訓練施設開設の効果】

- 洋上風力の訓練センターで年間1,000人の受講者が受講
- 視察などで外国人を含む多数の人が男鹿を訪れる

※男鹿市提供資料から渡島総合振興局が作成 （2025.7現在）

ヒアリングの内容

○ 男鹿海洋高校のプールを使って訓練を実施。海洋高校と訓練センターはガラスで区切られているため、**生徒が訓練の様子を見ることができ、**それによって**卒業後に洋上風力の関連会社に就職する**好循環も生まれている。

風と海の学校 あきた

（出典 :「風と海の学校 あきたHP」）

秋田県男鹿市における取り組みの概要

男鹿市「船川港における港湾機能の強化」の取組について（続き）

男鹿市の宿泊施設誘致の取組

○　男鹿市における宿泊施設誘致の状況

合計　255室

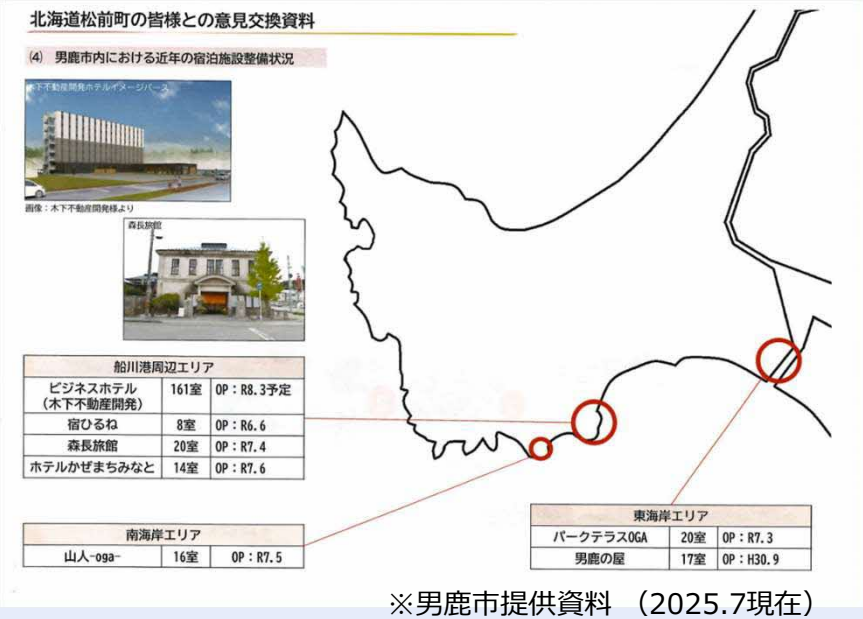
エリア	名　　称	客　室	オープン
船川港周辺	ビジネスホテル	161室	令和８年３月
	宿ひるね	８室	令和６年６月
	森長旅館	20室	令和７年４月
	ホテルかぜまちみなと	14室	令和７年６月
南海岸	山人 －oga－	16室	令和７年５月
東海岸	ホテルパークテラスＯＧＡ	20室	令和７年３月
	男鹿の屋	16室	平成30年９月

※男鹿市提供資料から渡島総合振興局が作成　（2025.7現在）

ヒアリングの内容

○　**宿泊事業を考える時に、洋上での需要がどこまで続くのかというのが正直ある。**建設の時はあると思うが、その後Ｏ＆Ｍがあるにしても**建設時のピークが維持できるかは不透明。**

○　宿泊事業者には、洋上の需要も狙っているが、**観光需要も自分たちで作っていくと話している。**



※男鹿市提供資料　（2025.7現在）

05

秋田県能代市における取り組みの概要

- 能代市「エネルギーのまち能代」の取り組みについて

北海道

秋田県能代市における取り組みの概要

北海道

能代市「エネルギーのまち能代」の取り組みについて

■　能代市では、日本の洋上風力発電事業のフロントランナーとして「エネルギーのまち」を推進し、全国に先駆けて能代港港湾区域内で洋上風力発電所の営業運転を始めており、あわせて産業振興や雇用創出、人材育成及び地域活性化などの取り組みを進めている。

能代市の概要

1　能代市の概要

人口　４万6,630人　（令和7年5月時点）

面積　426.95平方キロメートル

産業　木材・木製品製造業、農業、観光業など

基本情報

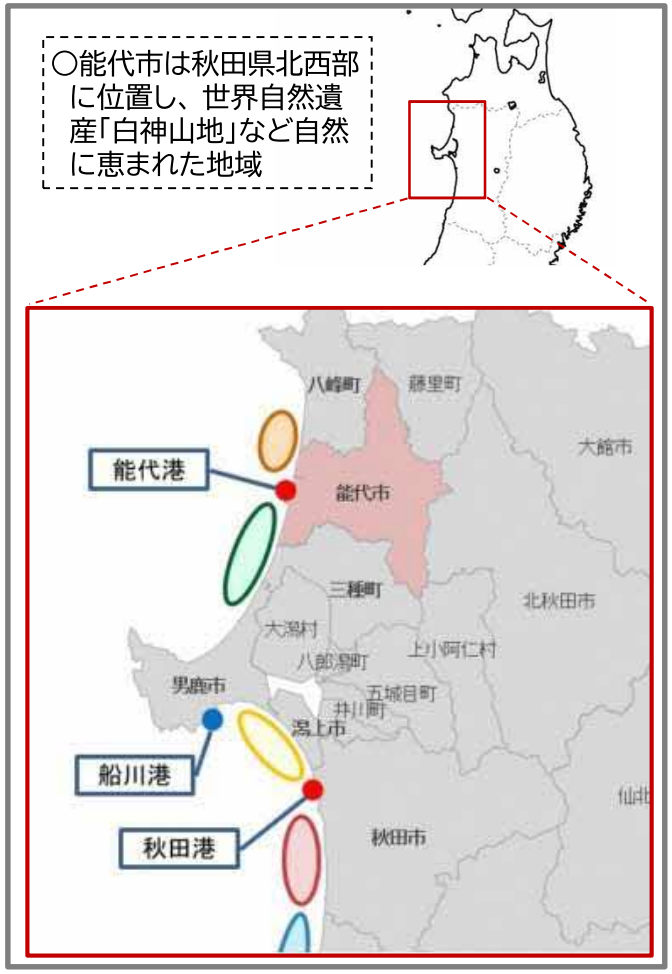
・古くから天然秋田杉の産地として知られ、木材加工業者の数や加工技術の高さから、「東洋一の木都」と呼ばれた

・全国優勝58回を誇る名門「能代工業高校バスケットボール部」の活躍もあり、バスケの街としてまちづくりを推進

2　洋上風力発電における能代市の位置づけ

・令和４年12月に**能代港港湾区域内で全国初となる洋上風力発電の商業運転**を開始

・**能代港が港湾法における基地港湾の指定を受け**、現在、ふ頭用地の造成や岸壁等の地耐力強化などの整備を進めている



※能代市提供資料から渡島総合振興局が作成　（2025.7現在）

秋田県能代市における取り組みの概要

北海道

能代市「エネルギーのまち能代」の取組について（続き）

産業振興・雇用創出の効果

1　秋田洋上風力発電株式会社
- ■ 能代市下浜地区に運転管理事務所と倉庫を建設。作業員を海上輸送するアクセス船（CTV）の安全運航を管理
  - ・操業開始　2016年４月
  - ・人　　員　６名（2023年現在）

2　Akita OW Service株式会社
- ■ 秋田洋上風力発電事業における建設工事並びにメンテナンスに係る交通船業務
  - ・操業開始　2019年10月
  - ・人　　員　18名（2024年現在）

3　ベスタス・ジャパン株式会社
- ■ 風車メーカー、風車の定期・不定期点検、修繕などフルメンテナンスを担う。現地のオフィスは作業員７名中４名が地元採用
  - ・操業開始　2022年12月
  - ・人　　員　20名（秋田Ｏ＆Ｍベースを含む、2023年現在）

※能代市提供資料から渡島総合振興局が作成　（2025.7現在）

ヒアリングの内容

○　秋田洋上風力発電株式会社の本社事務所には関連企業の人員を含め、**常時約100名ほどが常駐**し業務を行っている。

秋田県能代市における取り組みの概要

北海道

能代市「エネルギーのまち能代」の取組について（続き）

事業者と連携した取組①

能代市 Noshiro City

■ 能代次世代エネルギースクール(人材育成)

市内高校生を対象としたワークショップ・フィールドワーク等を通じて、再エネに関心を深めるきっかけを提供し、将来の地元定着に繋げる。

令和6年度のフィールドワークではENEOSリニューアブル・エナジー(株)やイベルドローラ・リニューアブルズ・ジャパン(株)と連携した講座や水中ドローン(ROV)の操作体験を実施。

「風力発電を活用した地域貢献策」をテーマとしたWSと市長へのプレゼンテーションを実施。

■ 次世代エネルギーパーク事業(エネルギー教育)

発電事業者と連携し、教育機関や市民団体等を対象とした風力発電や太陽光発電、火力発電等を巡るバスツアーを通年で実施。エネルギーに見て触れて体験する機会を提供するとともに「エネルギーのまち能代」のPRに繋げる。

～ みんなでつくる わのまち 能代 ～

1

※能代市提供資料 （2025.7現在）

能代市「エネルギーのまち能代」の取組について（続き）

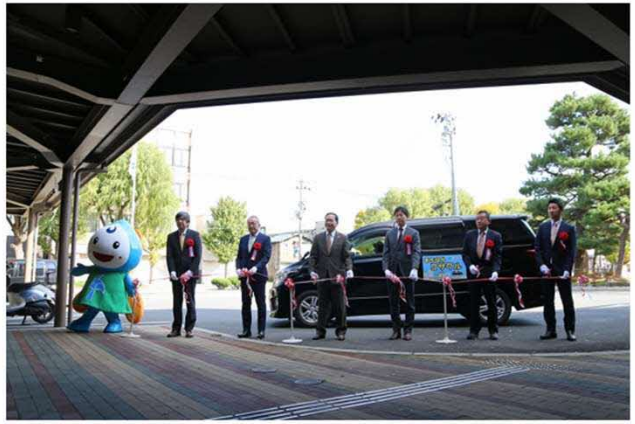
事業者と連携した取組②

能代市 Noshiro City

■ グローバルウインドデイin能代(理解・啓発)
世界風車の日にあわせ、風車タワーの見学やお絵かき、発電体験、CTVの一般公開などの機会を提供。

令和5年度からは秋田洋上風力発電(株)による協力のもと、能代港洋上風力発電所で活躍するCTV「Red Star」の一般公開を実施。

■「まちなかコサクル」実証運行(地域公共交通)
秋田能代・三種・男鹿オフショアウィンド合同会社による協力のもと、地域の通学、通勤、通院等の移動手段として、電話やスマートフォンアプリで乗車予約をし、指定した停留所で乗降する予約制乗合交通の実証運行を実施。



バスとタクシーの中間のような新たな公共交通。AI技術を活用し、予約状況に応じた効率的な運行が可能。

～ みんなでつくる わのまち 能代 ～ 2

※能代市提供資料 （2025.7現在）

06

北海道の取組について

- （仮称）「洋上風力ビジネスフォーラム in 函館」について

北海道

（仮称）「洋上風力ビジネスフォーラム in 函館」について

■　松前沖・檜山沖での洋上風力発電の展開を見据えて、函館・渡島・檜山管内企業を中心とした道内企業が、洋上風力産業に必要な資格・設備等の情報を把握し、具体的な参入イメージを持てるように講演及びワークショップを実施する。

イベントの概要

参加者募集中

■ 日　時 ： 令和７年（2025年）10月25日（土）13:00 ～ 16:30

■ 場　所 ： 函館アリーナ（メインアリーナ）

■ プログラム（案）

第１部 （13:10 ～ 14:30）

基調講演　洋上風力の最新動向と参入・育成に向けた支援について

技術講演１　港湾の活用にかかる現状と展望について

技術講演２　洋上風力の人材育成と地域連携の必要性

洋上風力に関する連携組織体の設置について

第２部 （15:00 ～ 16:30）

ワークショップ　自社の強みと参入可能性を探る

① 組立・設置（電気・陸上工事）

② 運用・メンテナンス

③ 港湾工事及び関連事業

④ 人材育成

実施主体　北海道（経済部、渡島総合振興局、檜山振興局）、函館市、函館渡島檜山ゼロカーボン北海道推進協議会
協力 ： 管内商工会議所・商工会、管内建設協会

北海道